

科 目 名	教育学				
配 当 学 年	1 年	必修・選択	必修	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	村田 政孝（非常勤講師）		単位認定責任者	村田 政孝	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>本授業では、教育理論や歴史、あるいは現代の教育に係る諸課題について幅広く取り上げ、教育そのものについての基礎的な知識や思考の形式を獲得することを目指す。</p> <p>また、毎時の授業においては、教育に係る報道に目を通し、特に強く関心を持ったことについて自らの意見をまとめることを求める中で、現代の教育課題への意識を高めることを目指す。</p> <p>さらに、「教育とは？」という問いについて自ら考え、自ら答える態度を養うことをねらいとして、講義内容と関連するテーマについて、異なる小グループによるディスカッションを行うことを通して、自らの思考を深めるとともに、自らの考えをまとめて述べる表現力の育成を目指す。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育学に関する基礎的概念について説明できる。</li> <li>2. 教育理論について、それぞれの意義や特徴を具体的に述べるができる。</li> <li>3. 教育理論を用いて、現代の教育課題における教育学的側面を分析することができる。</li> <li>4. 教育学的側面の思考を用いて、教育課題における思考・表現の違いを説明することができる。</li> <li>5. 教育に関する基礎的概念や一般理解を用いて、自らの学思考確立し具体的に述べるができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	25 %	定期試験		
	専門知識	25 %	定期試験		
	倫理観	%			
	主体性	15 %	毎時間の「シート」への取組並びにディスカッションへの参加意欲		
	論理性	35 %	レポート等による論理的な記述力		
	国際感覚	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	はじめに（ガイダンス、それぞれの教育の「原風景」を振り返る）				
2.	教育の意義と目的				
3.	人間が「育つ」ということ				
4.	「教え方」を探求した人々				
5.	教育への権利				
6.	学びを支える仕組み				
7.	子どものための学校				
8.	学校で学ぶこと				
9.	良い教師とは				
10.	日本の教員養成制度の歩み				
11.	教師と子どもとの教育的関係性				
12.	子どもの理解の枠組み				
13.	子ども理解とカリキュラム				

14.	社会教育と生涯学習				
15.	まとめ～教育とは？～				
授業外学修について	①事前学修：授業資料を熟読するとともに、関心を持った教育関連の報道に係る意見をまとめ、授業での発表に備える。 ②事後学修：毎時の授業の最後に課せられる「振り返りシート」に取り組み、自らの課題意識を鮮明にするとともに、当該授業の資料を再読し、授業で学んだ専門用語や知識を整理・定着する。 ③レポート作成：必要に応じて、課題についての情報を収集するなどして、与えられた課題について深く思考し、自らの意見を論理的に表現するよう努める。				
教科書	授業中に適宜資料を配付する。(次時の資料を配付することを原則とする)				
参考文献	①「教育の原理を学ぶ」(2015) 遠藤克也・山崎真之(川島書店) ②「問いからはじめる教育学」(2015) 勝野正章・庄井良信(有斐閣ストゥディア) ③「やさしい教育原理(第3版)」(2016) 田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二(有斐閣アルマ)等				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	×	○	×	×
成績評価の割合	50 %	0 %	35 %	0 %	15 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	◎成績評価の目安は、上記「成績評価の基準」によるが、「成績評価の割合」についての概要は、次の通りである。 ①定期試験 ・範囲は講義の全範囲とする。 ・持ち込みは「不可」とする。 ②課題・レポート：7回目の講義で課題を示し、13回目の講義日を提出期限とするレポート課題を課す。 ・定められた期限内に提出すること。 ・適切な情報収集がなされており、自らの考えを論理的に述べているレポートであること。 ③取組状況等：出欠状況、振り返りシート(関心を持った報道、課題)、ディスカッションなどを観点とする。 ・「出欠状況」が良好であること。 ・「振り返りシート」への記述内容が整理されているとともに確実に提出されていること。 ・「ディスカッション」への参加が意欲的であること。				

(教育学)